

第4回 修復的愛着療法 シンポジウム 「修復的愛着療法の臨床的応用」

日時：平成27年10月23日（金）10時～17時
会場：明治大学グローバルフロント1F多目的ホール

主催：修復的愛着療法研究会 共催：明治大学心理臨床センター
お問い合わせ：修復的愛着療法研究会 attijapan2015@gmail.com
専用ホームページ：<http://pomr.jp/attijapan2015/>

講師紹介

テリー・M・リヴィー心理学博士

ブリッジポート大学心理学科で学士課程を終了後、フロリダ州マイアミ大学で臨床心理学を専攻して1969年に修士号を1972年に博士号を取得した。1980年から4年間南フロリダ州ノヴァ大学心理学科の助教授として家族組織理論とセラピーの援助技術を教えた。

現在は、愛着療法を専門とするアタッチメント・トリートメント・アンド・トレーニング・インスティテュート(ATTI)をオランズ氏と開設して愛着障害児と実親・里親・養親との愛着の絆の修復と「癒しの親業」の教育を2週間の集中治療で行っている。世界各国から治療を望む家族が子どもを連れてATTIを訪れ、1985年から現在までに1000余の家族と子どもの治療を行った。2010年来日した際には日本人夫婦への治療的面接を行い、エヴァーグリーンにおいても日本人親子への愛着の修復に成果をあげている。著書に「愛着・トラウマとその癒し」「愛着障害ハンドブック」「癒しの親たち：里親と養親家族で安定した愛着を築くために」などがある。



シンポジウム開催に先立ち

幼児期に虐待などの不適切な対応を受けた子どもたちや、発達段階に沿わない不適切な環境で育てられた子どもたちのアタッチメントは、非常に歪められた形で形成されていきます。また、こうした子どもたちは、多様な行動上の問題を起こし、家族や集団で生活を営んでいく上で、大きな苦しみを抱えることになります。アタッチメントに問題を抱える子どもたちに対する治療・支援は、日本ではまだ十分確立されておらず、非常に大きな問題の一つでもあります。

アタッチメント障害の子どもたちに対する取り組みで日本よりはるかに先を行くアメリカでは、Attachment Treatment & Training Institute(ATTI)で行われている修復的愛着療法が大きな成果を上げています。修復的愛着療法とは、アタッチメント理論とトラウマ治療、そして家族療法を柱とした様々な手法を統合したものです。2週間の集中治療で、アタッチメント対象となる養育者への支援と心理教育、治療的介入から始め、子ども本人への治療的介入を行います。豊富な臨床経験を持つ、リヴィー博士とオランズ心理士の、ユニークで愛情あふれるアイデアが盛り込まれた素晴らしい治療方法です。

ATTIのリヴィー博士・オランズ心理士を招いての日本でのワークショップは、2008年名古屋、2010年神戸、2012年埼玉で開催され、大きな反響を呼びました。今回は4回目となり、明治大学心理臨床センターとの共催で開催されます。初日のシンポジウムでは、アタッチメントの観点からの児童虐待の心理治療と援助者・養育者支援にいち早く着目し日本に修復的愛着療法を紹介した日本社会事業大学の藤岡孝志教授と、アメリカでの最先端の治療・支援方法および理論を日本に紹介し続けているヘネシー澄子博士をお招きし、「修復的愛着療法の臨床的応用」についてディスカッションを行います。その後、リヴィー博士より、「修復的愛着療法の基礎講座」と題し、具体的な事例を通じてのご講義をいただきます。ヘネシー博士にはわかりやすい日本語訳に解説を加え、皆さまの質疑にお答えいただけます。

愛着障害の治療を巡る状況と修復的愛着障害療法

Bowlbyがアタッチメント理論を提案してから、学術研究の領域と臨床実践の双方の領域で、アタッチメント理論に関する様々な発展が遂げられてきています。例えば、ストレンジ・シチュエーション法での乳児のアタッチメント分類、成人のアタッチメントの研究、そして虐待などの不適切な養育を受けた子どものアタッチメント研究です。これらの研究の中で得られた成果をもとに、臨床的応用がなされ、様々なアタッチメントの観点からの心理治療や支援方法が考案・実践されています。

しかしながら、アタッチメント療法の一部には、危険が伴い禁止されているものもあります。「愛着療法」は、愛着障害の治療を目的とし、1960.1970年代に主に、クライン博士とエヴァグリーン市の愛着センターの関係者によって作られ、全米に広がりました。しかし、子どもが再誕生(Rebirthing：毛布にくるまれ、大人何人かの重さに抗って生まれ直す)を伴う集中的愛着療法中に窒息死したり(2000年)、11人の養子の多くがホールディング・セラピーを受け、家庭では寝かされる愛着療法ペアレンティングを受けていたケースが摘発されました(2005年)。そのため、ホールディング・セラピーや、マッサージ、くすぐり、食物・水分摂取に関わる罰、アイコンタクトの強制、大人によるコントロールへの完全服従、通常の社会的関係の遮断など、強制的で拘束的あるいは嫌悪的な手続きが批判されています。例えば、2州で再誕生が禁止され、コロラド州でも緊急時以外はセラピーにおいて拘束を用いることを禁止しています。こうした「愛着療法」に対する反愛着療法キャンペーンもあります。

このような強制的で死亡事故を起こした「愛着療法」とATTIにおける修復的愛着療法は、両機関とも同じエヴァグリーン市にあり名前も似ていますが、全く別のものです。

リヴィー博士、オランズ心理士は、修復的愛着療法と修復的愛着ペアレンティングを、トラウマ、ファミリー・ダイナミクス、子どもの発達、生物学と脳研究、愛着理論の領域からの考え方と方法論を結合して作りました。彼らは強制と服従を用いる実践には明確に反対しています。彼らが1989年に共同設立した親と専門職による国際的な団体ATTACH

(Association for Treatment and Training in the Attachment of Children)は、「愛着障害をもつ子どもたちが非常に挑発的な行動を示すのは、深い恐れと恥への防衛的な反応であり、強制的な介入を用いる根拠は一切ない。情動を扱うためには、条件付けられた情動反応を活性化することが必要だが、大人はサポートの源であるという感覚を促進し、個人の対処能力を越えない方法でのみ行う」という姿勢をはっきりと示しています。



ヘネシー澄子先生

クロスロード・フォー・ソーシャルワーク社所長
東京福祉大学名誉教授
社会福祉学博士
臨床ソーシャルワーカー

東京外国語大学仏語科卒業後、ニューヨークのフォーダム大学で社会福祉学修士号を、コロラドのデンバー大学で博士号を獲得する。

東京福祉大学で実習担当主任教授、コロラド州オーララ市に在住して、アメリカの最新援助技術を日本に紹介するクロスロード・フォー・ソーシャルワーク社を夫と共に立ち上げ、日本の児童福祉に携わる人達の研修を日・米両国で行っている。

著書には反応性愛着障害を書いた「子を愛せない母・母を拒否する子」と子どもとトラウマを書いた「気になる子・理解できる・ケアできる」がある。

■ シンポジスト

藤岡孝志(日本社会事業大学社会福祉学部教授)
加藤尚子(明治大学文学部准教授)
濱田祥子(明治大学文学部専任講師)

修復的愛着療法 シンポジウム

「修復的愛着療法の臨床的応用」のお申込み

■ スケジュール (予定)

- 10:00~11:15 シンポジウム「修復的愛着療法の臨床的応用」について
 シンポジスト1 藤岡孝志 (日本社会事業大学社会福祉学部教授)
 シンポジスト2 加藤尚子 (明治大学文学部准教授)
 シンポジスト3 濱田祥子 (明治大学文学部専任講師)
 コメンテーター ヘネシー澄子 (社会福祉学博士)
- 11:25~12:55 講義「愛着・トラウマ 修復的愛着療法」
 講師：テリー・M・リヴィー心理学博士
 通訳・解説：ヘネシー澄子 (社会福祉学博士)
- 14:10~17:00 続き「修復的愛着療法 ケーススタディ」と質疑応答
 講師：テリー・M・リヴィー心理学博士
 通訳・解説：ヘネシー澄子 (社会福祉学博士)

■ 開催要項

- ・日時：2015年10月23日(金) 10時~17時
- ・会場：明治大学グローバルフロント1F 多目的ホール
- ・参加費：A.シンポジウムのみ 8,000円(税込)
 B.シンポジウム+懇親会 12,000円(税込)
- ・定員：250名(定員になり次第、締め切らせて頂きます)
- ・講師：テリー・M・リヴィー心理学博士
 ヘネシー澄子(社会福祉学博士)
 藤岡孝志(日本社会事業大学社会福祉学部教授)
 加藤尚子(明治大学文学部准教授)
 濱田祥子(明治大学文学部専任講師)

■ 対象者

里親さん、児童養護施設、乳児院等で働く方々、児童相談所等職員、保健・医療・心理関係職員、司法関係職員、大学教員、アタッチメント障害の治療に関わり守秘義務を有する方々、心理系大学の学生、心理系関係学術分野専攻大学院生



明治大学グローバルフロント1F 多目的ホール
 ※1Fにサンマルクカフェが入居しています(目印)

<アクセス>

- ※JR中央線・総武線、東京メトロ丸の内線/御茶ノ水駅 下車徒歩3分
- ※東京メトロ千代田線/新御茶ノ水駅 下車徒歩5分
- ※都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線/神保町駅 下車徒歩5分

参加申込み書

必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailでお申込み下さい。



FAX : 03-6261-2738

E-mail : attijapan2015@gmail.com

シンポジウム参加に際し、「守秘保持の誓約書」に署名をして頂くことを予めご了承ください

【お願い】

申込み欄が足りない場合は、お手数ですが本申込み書をコピーの上、ご利用ください

■ 参加費振込先

お申込み後、事務局からの返信メールをご確認の上、下記口座に所定の料金をお振込ください

■振込先 ゆうちょ銀行 12440-22803071 (他銀行からは 店番号 248 普通 2280307)
 口座名 シュウフクテキアイチャクリョウハウケンキュウカイ

参加者氏名 (ふりがな)		電話番号	
返信用 メールアドレス		参加 希望コース	A. (シンポジウムのみ 8,000円) B. (シンポジウム+懇親会 12,000円) ↑ご希望のコースに○をつけて下さい
所属先		職種	